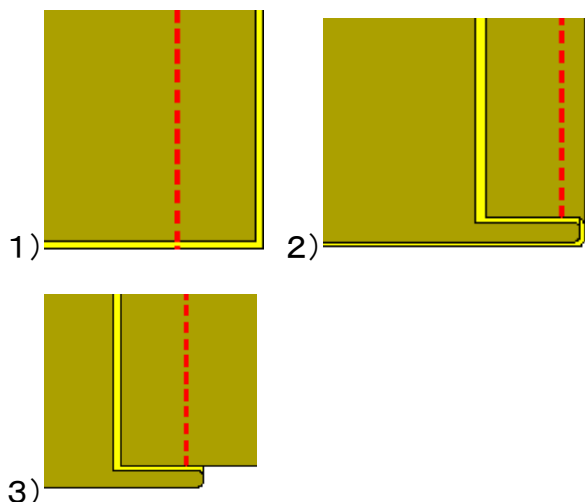


<p>■表 ■裏 ■接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれどめしてください。 型紙で指定されたパーツの裏に接着芯を付けてください。 くわしくは縫う前の下準備を参照</p>
	<p>後身頃の中心を表同士が内側なるように重ね縫ってください。</p>
	<p>肩と脇を縫ってください。</p>
	<p>えりつけ。 表を上にしたえり首に裏を上にしたえりをつけてください。</p>
	<p>えりを起こしてください。 縫い代を上下に折って広げてください。</p>

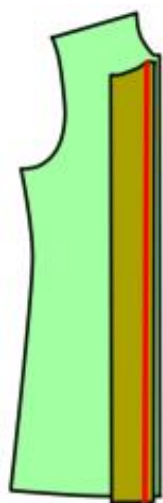


この折り目に余裕を持たせることを「**きせをかける**」といいます。

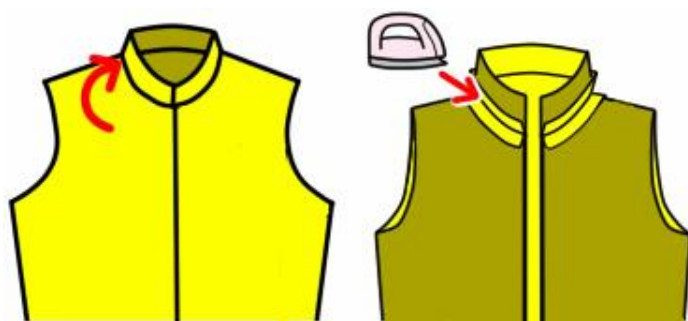
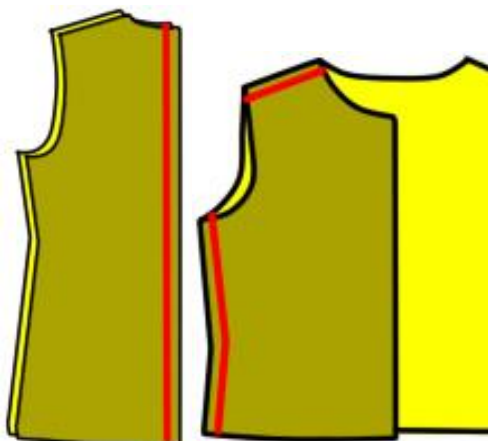
きせの幅はきっちりとはからなくていいですよ。
特に裏地は裁断している端からずれやすいので
縫い合わせる相手の場所にあう長さになるように
臨機応変にずらしてください

裏地を調節する方法

- 1) 1センチのところを縫ってください。
- 2) 5mm前後縫い代より内側をアイロンで折ってください。
アイロンの温度は中～低温で。
温度が高いと素材によっては縮んだり、引きつったりすることがあります。
- 3) 折り目を広げないように気をつけて生地を広げて、続きの作業をしてください
市販の裏地のついた洋服を見ても、同様に折り目をつけて裏地に余裕を持たせているのを見ることが出来ますよ。
表地より裏地の余裕が少ないと、表が突っ張ったような感じになりますので、裏は多少ゆとりがあったほうが綺麗に仕上がります。



表を上にした裏地の前身頃に裏を上にした見返しをつけてください。

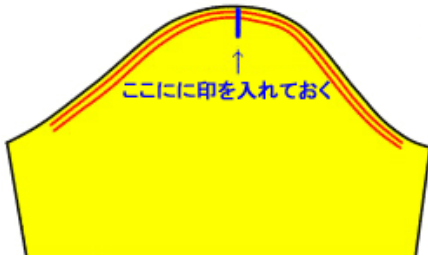


裏地も後中心と肩と脇とえりを縫ってください。



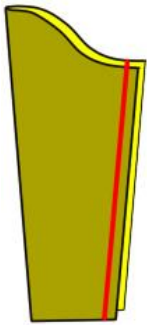
裏地の表と、表地の表同士を合わせて縫ってください。

袖の所から表に戻してください。

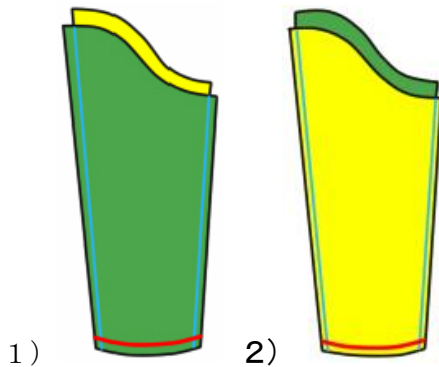


そでの肩の所にギャザーを寄せてください。

ギャザーの寄せ方は縫う前の下準備参照ください



そでのそこを縫ってください。

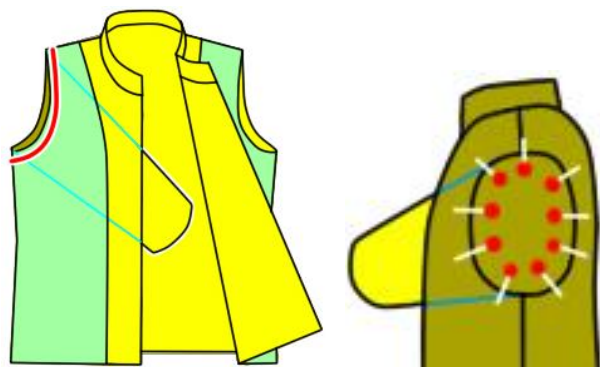


1) 表そでを表に戻してください。

表そでに、裏を上にした裏地をかぶせてください。
そで口を縫ってください。

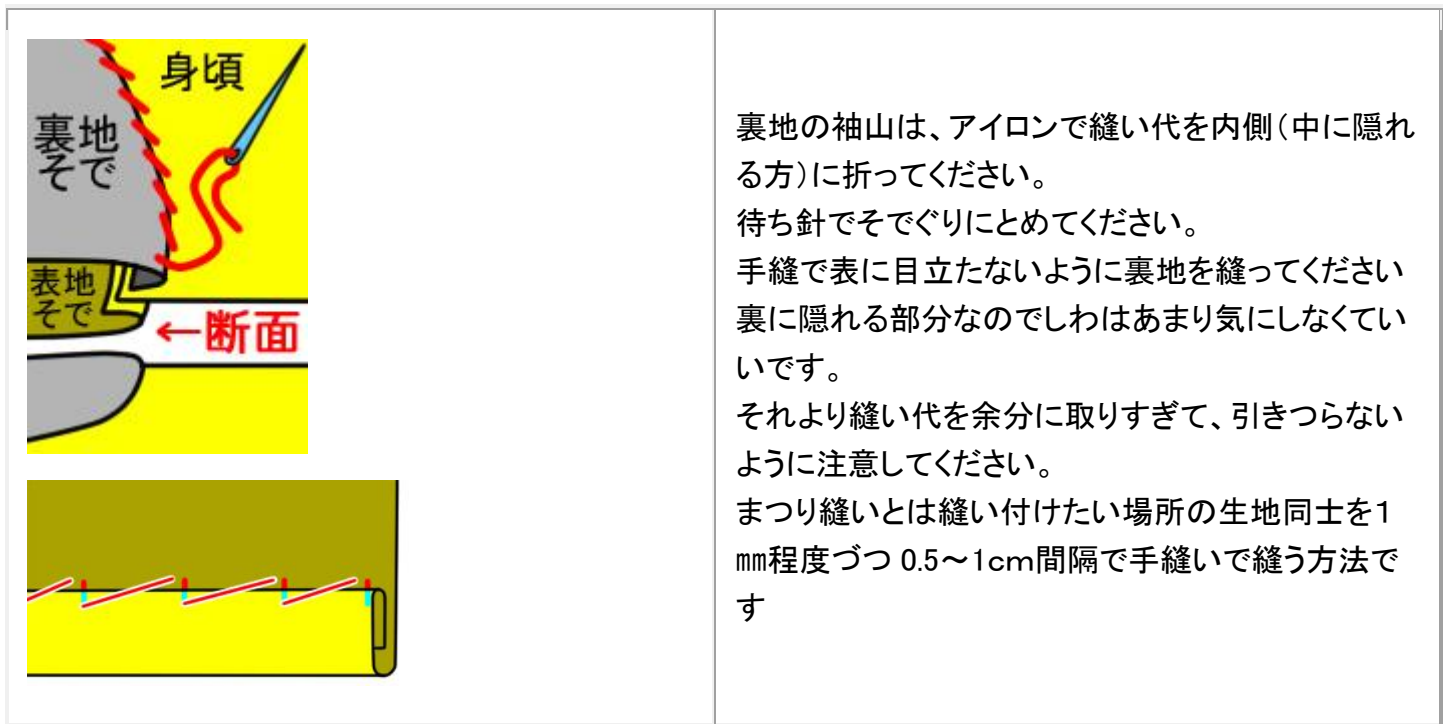
2) 裏地を中に入れてください。

そで口を端から0.5~1cmの所を縫ってください。



裏を外側にした身頃に、そでをつけてください。

そのときはそでの裏地はよけてください。



裏地の袖山は、アイロンで縫い代を内側(中に隠れる方)に折ってください。

待ち針でそでぐりにとめてください。

手縫いで表に目立たないように裏地を縫ってください
裏に隠れる部分なのでしわはあまり気にしないでいいです。

それより縫い代を余分に取りすぎて、引きつらないように注意してください。

まつり縫いとは縫い付けたい場所の生地同士を1mm程度づつ0.5~1cm間隔で手縫いで縫う方法です

必要な材料、

表地、裏地、接着芯 お好みでボタンやスナップボタン等

おすすめの生地

ブラウスのような綿の薄い生地だと透けてしまったり、シルエットがくずれたりしやすいので、綿なら中厚地

張りのある化繊、ウールの生地があうと思います。

気に入った柄で、薄い生地しかない場合は、接着芯を貼ったり裏地をつけたりしてしっかりさせてください。

ポリエステルツイル

化繊なので綿ツイルに比べて軽いです。

しわになりにくいです

張りがあります、パニエを下にはいて広げたい場合に向いていますが、張りがある分柔らかくドレープを出したい場合には向きません。

初心者にも扱いやすい生地です。

綿 ツイル

ポリエステルツイルに比べ、柔らかいですが、出来上がった服を着て長い時間座ったりするとシワが入ります。

扱いやすい生地です

ジャガード 織りで模様をいれてある生地。厚さにも色々あるので薄いものを使いたい場合は、最低前身頃の裏全体に接着芯を貼ると見栄えがいいですよ